



クラブ広報委員会 伊藤祥文 古川弘一 伊藤雅昭 R.I.認証 S28.6.22 例会 毎週金曜日12:30~13:30 例会会場 ツシマウール会館 会長 鈴木吉男 幹事 寺島淳一 <http://www.tsushima-rc.org>  
 委員長 伊藤基 稲垣宏高 開田広 事務局 〒496-0044 津島市立込町3-26-2 ツシマウール会館内 TEL(0567)26-1600 FAX(0567)26-1661 e-mail:info@tsushima-rc.org

## 本日の行事予定 (2014年6月13日)

### 第2972回

卓話担当：根崎健一君

講師：愛知県警察本部警備部  
 災害対策課課長補佐  
 警部 落合健一氏

演題：「東日本大震災に派遣された経験談と  
 愛知県警察の災害対策について」

### 先回の記録 (例会)

#### 第2971回 '14年6月6日 (金)

卓話担当：親睦活動委員長 八谷潤一君

講師：津島市観光大使 水谷ミミ氏

演題：「観光大使ミミちゃんのここだけの話」

ロータリーソング 「四つのテスト」

ソングリーダー 稲垣宏高君

会員総数 68名 5月16日例会分訂正

出席免除会員 22名 欠席会員 11名

本日出席会員 53名 MAKEUP会員 7名

本日の出席率 77.94% 訂正出席率 98.46%

超過出席 田中正明君 (第2回地区社会奉仕委員長会議)、安江正博君、三谷栄一君、野々山勝也君、浅井彦治君、八谷潤一君、伊藤幸蔵君、矢田潔君 (次年度クラブ広報・ニコボックス合同委員会)、伊藤哲朗君、浅井彦治君 (次年度会員増強委員会)、児玉昭君、杵田勝彦君 (名古屋清須RC)

### 副会長挨拶



#### 伊藤哲朗副会長

本日は、会長が世界大会に出席されていますので、代行を務めさせていただきます。3回目となりますが、鈴木会長のようにロータリークラブのお話ができればよいのですが、それほどの知識を持ち合わせていません。本日は、津島市観光親善大使であって、講談師「水谷風鱗」氏、水谷ミミさんをお迎えしておりますので、観光についてお話ししようかと思いましたが、片岡観光協

会会長の前では、ちょっと話しづらいので、「ライフスタイル」について少々お話ししたいと思えます。

実をいうと、観光というものも「ライフスタイル」とは、切っても切れない関係があると思っています。というのは、観光は、その地域の名所旧跡、歴史に触れることが、大きな要素であることはいまでもありませんが、私はその地域のライフスタイルに接することが、楽しさを感じる要因だと思っていますからであります。

さて、「ライフスタイル」に戻ってお話をさせていただきますが、この言葉に出会ったのは、今から21年ほど前になります。今でこそ、この「ライフスタイル」という言葉は、あたりまえのように使われていますが、私は、この時まであまり聞いたことはありませんでした。そして、この「ライフスタイル」こそ、これからの商売に重要な要素になると言われたのであります。

ロータリークラブに入れていただいて、職業分類は衣料品配布であります。皆様ご承知のように、私は代々のふとん屋でありまして、入会当時は、婦人服、紳士服のお店もやっておりましたので、それで「衣料品配布」になったのかわかりませんが、「ファッションスタイル」、トラディショナルやエレガンスやカジュアルなどという言葉は耳にしておりましたが、「ライフスタイル」はぼんやりわかりそうで、その実、全く理解できませんでした。

私は、現在、生活雑貨のお店を出させてもらっていますが、21年前に出会った先生に、お店のコンセプトをこう決めていただきました。この考え方は今も変わっていません。それは、「ライフスタイル型、コンビニエンスストア、接客型、旅行者気分で、駄菓子屋のおばちゃん」であります。長いので、もう一度繰り返させていただきます。

この時、かの先生は「ライフスタイル」とは、こんな生活がしてみたい、と一人ひとりが思っているのが、まさに「ライフスタイル」なんだと。あまりまでも過ぎて、何も面白くもないですが。

じゃあ、どんなスタイルかとなると、人それぞれバラバラで、本当にお店になるの？ と思いました。

100人100色のライフスタイル、それぞれが当たり前の話なのですが、現在はそうした「ライフスタイル」がエンジョイできる商品、お店づくり、商業施設、生活環境施設、イベント、観光など多岐にわたって広がっています。

そして、それは、リアルからバーチャルへ、バーチャルとリアルの融合へ、益々広がりを持つようとしています。



### 幹事報告

#### 稲垣宏高前年度幹事

1. 青少年交換学生のジェッシー君に出席して頂いております。後ほど伊藤哲朗副会長より6月分のお小遣いをお渡し頂き、近況報告をしていただきます。
2. 6月11日(水)午後3:30～、「地区ロータリー研究会」が「名古屋国際ホテル」で開催されます。三谷栄一会長ノミニー、山本達彦幹事ノミニー、加藤則之次年度職業奉仕委員長に出席していただきます。
3. 『ロータリーの友』6月号をお配りしました。
4. 『ガバナー月信』6月号を回覧しました。
5. 津島ライオンズクラブさんより、次年度社会奉仕事業で開催する「国際親善と東日本大震災復興支援コンサート」の案内が届いております。7月11日(金)、津島文化会館にて開催され、第1部が13:30～、第2部が17:30～となっております。入場無料ですが、整理券が必要ですのでご覧になりたい方は、津島RC事務局までお申し出ください。詳しい案内は回覧しましたのでご覧ください。
6. 6月の理事会は3月の理事会で承認されている通り、本日会長・幹事不在のため次週6月13日(金)に変更となっております。以上です。よろしくお願いいたします。

### ニコボックス報告 第2971回分



水野人志ニコボックス委員  
鈴木吉男会長、伊藤哲朗副会長、寺島淳一幹事

①卓話講師に津島市観光大使の水谷ミミ様をお迎えして!!

日比一昭君 本日は出席を予定していましたが、公務多忙で出席できず申し訳ありません。そして津島市観光大使水谷ミミさんにも、くれぐれも宜しくお伝え下さい。来月伺うことを楽しみにしています。

浅井賢次君 ①本年度も後1ヶ月になりました。皆さんよろしく。②会長始め、皆代理です。ご活

躍下さい。③ニコボックスの余郷委員長始め皆さんご苦労様です。

伊藤哲朗君 3回目の代行です。会長代理を務めます。三谷さん副会長代行もよろしくお願いいたします。

安江正博君 新聞に次年度役員が載りました。よろしくお願いいたします。

八谷潤一君 本日卓話を担当します。

生田達一君、加藤隆朗君、加藤則之君、水野憲雄君、余郷利彦君 津島市観光大使の水谷ミミさんをお迎えして。

浅井彦治君 中日新聞に写真が載りました。

寺島淳一君 稲垣前年度幹事にお世話になります。

鶴見治貞君 れんこん焼酎の話で盛り上がりました。

根崎健一君 安全運転管理協議会の総会を無事に終了する事が出来ました。また皆様にお世話になります。よろしくお願いいたします。

伊藤祥文君、余郷利彦君 津島神社のお堀にホテルが飛びました。皆様見にきて下さい。

加藤則之君 篠田さんに娘婿(Len)が大変お世話になりました。ありがとうございました。

住田正幸君 お久しぶりです。少しひまができました。

大河内勝彦君 弥富市1号線沿いに脱毛とエステのアンテナショップを開設いたしました。お気軽にお立ち寄り下さい。(毛の薄い方はおことわり)

河西あつ子君 家族会を欠席しました。

堀田力男君、杵田勝彦君、吉田康裕君 ウィークリーに写真が載りまして。

河西あつ子君、松崎安孝君、水野人志君、佐藤雅彦君、伊藤幸蔵君 その他。

### 卓話

卓話担当：親睦活動委員長 八谷潤一君

講師：津島市観光大使 水谷ミミ氏

演題：「観光大使ミミちゃんのここだけの話」



明治17年の尾張の綿織物の生産量は、大阪に次いで全国2位でした。しかし明治24年10月28日の濃尾地震と明治30年の大洪水で綿花栽培は困難になり、一方で安いインド綿花の輸入が始まり、尾西地方の綿織物業は次第に衰退していきました。「何か綿織物に変わるものを…」と、この時代の流れをいち早く読んで毛織物工業へ着目した人物が、津島の片岡春吉です。本日はこの片岡春吉のお話です。



春吉は明治5年、岐阜県養老郡で農業を営む三輪定右衛門の次男として生まれ、尋常小学校を卒業すると、でっち奉公に出されました。奉公先は、はた織機の部品、竹おさを作っていました。そこでせつせと人一倍働く春吉の働きぶりを見ていた人物が、津島の「おさ孫」の主人、片岡孫三郎です。孫三郎はしっかり者の春吉ならば「おさ孫」の将来を任せられると思い、明治25年春吉20歳の時、一人娘しげと結婚させました。親子となった孫三郎と春吉は、性格がよく似ていました。心優しいけれど、やりだしたことは途中で投げ出さず、何事も納得するまでとことんやり遂げる一生懸命なところですよ。

春吉は孫三郎の家業の箴づくりから卒業して、新しい織物業に挑戦したいと相談しました。綿織物ではもう大企業にたちうちできないとわかっていたので、新しい素材を使った織物に取り組みたいと思っていたのです。孫三郎は勉強のため春吉に日本中の織物産地を見てくるように勧め、明治29年の春、京都の西陣や、群馬の桐生など織物業の各地を訪ね歩きましたが、やはり春吉の目にはどここの産地もこれから発展の余地はないように映りました。絹や綿に変わる新しい織物業に取り組みたい！春吉はその年、孫三郎に励まされ、日本最初の毛織物会社でモスリンを製造していた東京モスリン紡績(株)に入社します。モスリンとは薄地の毛織物で、「これからはきっと着物に変わって洋服が増えてくるに違いない。服地の毛織物が織れたら、どんなにすばらしいだろう」と考え、モスリン工場へ毛織物の勉強のために見習いとして入社したのです。そこで春吉はわずか2年間でモスリン製織の技術と知識を身につけ、津島に戻ってきました。お土産は1台の手織機。

孫三郎と春吉は、おさ孫で稼いだ全財産を投入し、さらに借金までして工場を建て、持ち帰った手織機をもとに、モスリンを織り始めました。春吉26歳の時です。しかし、モスリンは売れませんでした。まだこの時代、洋服の布を買う人は少なく、外国のものよりできればよくなかったのです。しかしこんなことにくじけるような春吉ではありません。毛織物に生きる志を立てた春吉は、モスリンの失敗から学んだことを生かし、今後は和服用織物セルに挑戦します。輸入品に劣らない品質の高い毛織物を作り出そうと研究に没頭します。その間家計は苦しく毛織物の材料である毛糸すらまとめて買うことができず十数回にわけて買い入れ、名古屋まで約20kmの道を背負って持ち運びました。でも春吉はしんどい、疲れたと弱音は決して吐かず、むしろ毛糸が少しでも手に入って研究ができると喜びのほうが大きかったのです。

しかし、借金取りがきても払うお金はなく、今日食べるお米さえなく、乳呑児を抱いた妻しげの母乳が止まってしまうこともありました。近所の人たちは「片岡のところだいが苦しいらしいなあ。

だいたいよオ、毛織なんてやろうとすることが間違っとなるんだわ。おさ作りをやったりゃあ、良かったんだわ。おさ孫さんもとんでもにゃあムコ養子を迎えてまったな」と噂をしていましたが、なんと言われようと春吉はひたすら研究に励みました。妻しげも文句を言ったり、怒ったりせず、夫を信じて貧しさに耐えました。そしてついに試行錯誤の結果、輸入品に負けない毛織物を作り出す片岡式織機を作り上げました。

明治34年、第5回愛知県品評会が開催された時、春吉はその永年の研究成果であるセルの毛織物を出品しました。すると輸入品に勝るとも劣らない品質であると高い評価を受け、銅賞牌を受賞、翌年の第2回全国生産品博覧会では有功二等賞銀牌を受け、明治36年に大阪で開かれた第5回内国勸業博覧会(国家プロジェクトの博覧会)で二等賞をとり、この成功を期にセルの製織がにわかに脚光を浴び、これ以降軌道に乗り、生産量が増加していきました。しかし春吉はそれくらいでは満足せず、さらに上を目指します。手で織っているのは能率があがらない、機械の織機でないと大量生産ができないと、明治39年になんとイギリスとドイツから輸入織機を注文したのです。購入費は莫大でまたまた蓄えた資本をほぼ使い果たしました。

しばらくしてドイツ、イギリスから全部品が届きましたが、組み立ては自分達で行わなければなりません。しかも説明書はドイツ語や英語で書かれています。春吉は時間を忘れ組み立て、不具合のある部品には改造を加え、ついに明治42年9月、すべての組み立て、織機の設置が完了しました。後にイギリスの技術者が見学に訪れた時、専門家の誰もいない春吉の工場で少しの狂いもなく組み立てられ運転されていることに感嘆の声をあげたそうです。

こうして春吉の工場で品質の優れたセルの大量生産が始まり、会社も個人から合名会社に変わり、片岡の名は日本中に知れわたったのです。国内のみならず、海外にも輸出されるようになりました。25歳で毛織物に取り組み始めてから十数年、寝る間も惜しんで研究に没頭し、苦闘の末にたどり着いた成功でありました。

しかし春吉はその研究成果を一人じめしたり自慢することもなく、訪ねてくる人にはその技術をすべて教えました。機械の買い入れ、セルの織り方、どんなことにもいやな顔ひとつしないので快く相談に乗りました。そのお陰で津島も含めた尾西西部地方は毛織物産業地帯として発展していき、愛知県の毛織物の生産高は全国一になったのです。このような地域への献身によって、春吉は「毛織業界の父」と呼ばれるようになり、明治43年には実業功労者として豊田佐吉らと共に明治天皇に拝謁します。豊田佐吉と片岡春吉の2人には共通点があります。それは、共に織物業、特に織機の研究をしたこと、そしてもう一つ、最後まで決して

あきらめず世間の目を気にせず、ひとつのことに熱中できる力があることです。

大正13年2月10日、片岡春吉は52歳で亡くなりました。早すぎる死でしたが、片時の休みもなく働き通しの生涯、人の3倍も4倍も、いや10倍も濃い人生を生きた人ではないでしょうか。津島の成信坊で行われた告別式には、降りしきる雪の中、多くの人々が参列し引きも切らず長蛇の列が続きました。西尾張の毛織物業界は片岡春吉の栄を讃えて、昭和11年津島の天王川公園に春吉像を建立しました。



片岡春吉という人物のお蔭で津島の経済は100年持ったといっても過言ではないでしょう。特に景気が良かった戦後の昭和23年頃、「ガチャ万」という言葉が生まれるほどの全盛期を迎えました。「ガチャ万」とは、はた織りをガチャンと織るたびに1万円もうかったので、ガチャ万ガチャ万といいました。

全国各地から集団就職で津島にやってきた若い女性で街は活気にあふれ、ウールの津島として全国にその名を知られるようになりました。とにかく景気の良かった時代のお話でございます。当時は数百軒あった織物工場が今では数十軒になってしまいました。次世代の片岡春吉が生まれるのはいつのことでしょう。誕生が待たれる今日この頃であります。「毛織物界の父・片岡春吉伝」と題します一席の講談でございます。本日の講談は、津島の天王文化塾・黒田剛司さんの書かれました資料をもとにお送りいたしました。誠にありがとうございました。

**誕生日祝福(6月分)**

**吉田康裕親睦活動委員会**  
 加籐則之君(7日)  
 水野憲雄君(24日)



**夫人**  
 服部 貴夫人(8日)  
 三谷栄一夫人(12日)  
 寺田健一夫人(13日)  
 鶴見治貞夫人(29日)

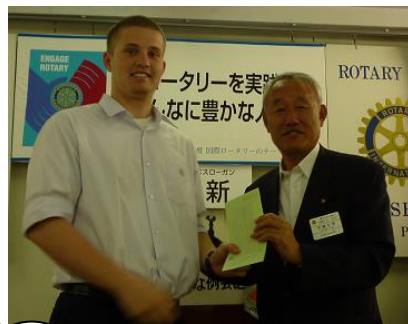


**ご主人**  
 河西あつ子君(6日)  
 横井 知代君(22日)

枕の中にヒツジが何匹詰まってる?

**その他**

伊藤哲朗副会長より、ジェッシーに6月のお小遣いをお渡ししました。



副会長代理の出番が多すぎませんか?

天王祭に台北滬尾RCが来ますので、委員会を行います。



三谷栄一次年度副会長



後藤務国際奉仕委員長

**訃報**

6月9日、山田清三君が行年77歳にてご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



**次回例会**

第2973回 '14年6月20日(金)  
 《クラブアッセンブリー》

**お知らせ**

- 今年度広報委員会  
 と き：6月20日(金) 18:00～  
 ところ：朝日寿し
- 今年度最終役員理事委員長会議  
 と き：6月26日(木) 18:00～  
 ところ：魚しま
- 今年度次年度会員増強委員会  
 と き：6月27日(金) 18:00～  
 ところ：魚しま